

日本 ハンザキ研究所 ニュース No.10

発行 2006. 11. 30

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川 292

Tel./PAX (079)679-2939

日本ハンザキ研究所 橋本 武良

源流の里・黒川エコ・ツアー

今年の始めに NPOの承認を受けたばかりで、まだまだ体力も経験も少ない地域再生研究センターですが、とにかく何かをやって見せていこうという気持ちは強く持っており、色々なイベントの実施に向けて検討をしてきました。その中で、とりあえず地元の秋の祭りである“めっちゃ面白い黒川秋の陣”のイベントへの協賛を兼ねてエコ・ツアーを計画しました。インターネットでの公募だけでどれだけの応募があるのか心配されましたが、結果は神戸・姫路を中心に東京や広島からの参加もあり、当日の参加者70名となり盛況でした。

11月3日の祝日にバス2台で10時過ぎに到着。内容は、ハンザキ研でオオサンショウウオについてのレクチャーと施設の見学、ハンザキ橋からあんこ淵の黒主が姿を見せて歓声が上がリ、当日の朝に孵化したばかりのオオサンショウウオの幼生を卵と共に観察できたというグッドタイミングもありました。今年の産卵が10日程遅かったのも幸いしたのですが、フィールドの人工巣穴では前日の確認では全ての卵が孵化していたので、本当にタイミングの良いことでした。午後のオプション・ツアーでは実際に川岸に設置された人工巣穴の蓋を開いて幼生を護っているオス親の行動も観察していただけたので、河川工事や野生動物への保護活動などについての理解を深めて貰えたのではないかと思います。

昼食は、お祭りの会場である黒川自然学習センター前の広場で、地域の皆さんが総出で出店を開いており、アユやアマゴの塩焼きや熱々の黒川ダイコン炊きなどに舌鼓を打ち、餅つきなどの体験を楽しんでいました。また、黒川特産のネギ（元祖・岩津ネギ）や大根の即売などが行われていましたが、ここでも、一般の祭り参加者に対して“あんこ博士”の特別講演が行われ、横を流れる市川の源流に生息していたオオサンショウウオ2個体が登場しました。1個体はマイクロチップが挿入されていましたが、もう1個体は新規登録個体で、デモンストレーションには恰好のサンプルでした。

終了に際してアンケートを書いていただきましたが、おおむね好評で来年からの同様なツアーへの弾みになりました。ただ、オオサンショウウオだけに興味を持って参加した人もあったようで、もっとジックリ見ていたかったなどの感想もあり、今後は焦点を絞り込んだツアーを考えていった方がいいのではないかと考えさせられました。

ツチノコ第1号登録！！

その昔、ノータリン・クラブと称していい年をした皆さんが、幻の動物“ツチノコ”を求めて探索しているというユーモラスなニュースが有りました。ネス湖のネッシーに代表されるように、いつの時代にもこの様な夢を探求する話があるものですが、最近では賞金を出したりあちこちでつちのこ騒動が話題を提供しているようです。ユメは夢として結構なことですが、さてどんな生き物がその幻の姿のモデルなのでしょう？

ツチノコのイラストでは腹が太く手足が有り、人に出会うとあっと言う間に稲妻のように素早く姿を消してしまうというものです。そのスケッチにピッタリの動物が確認され、マイクロチップが挿入され登録されたのです。その生き物とは我が愛する“ハンザキ”君です。生野ダム直下では市川の右岸側からの伏流水が多く地滑りを起こしている場所があります。山の斜面にはレールが打ち込まれたり、地下水をくみ上げるポンプも設置され、山腹から放水されています。ここは市川が急カーブして左岸に深い淵を形成し、カップが人を引きずり込んだという伝説があり、切り立った岸壁を彫り込んで祠が作られ石仏が祭られています。道路も狭く山の北側にあるために冬季には路面がアイスバーンとなり、危険なため来年度から兵庫県八鹿土木事務所・朝来事業所の工事で拡幅と河川の付け替えが予定されています。

八鹿土木は平成2～6年に円山川水系建屋川において、大規模なオオサンショウウオなどの水生生物への対策を立てた工事を実施したことで全国的に知られています。今回は、生野ダムで分断された市川のダム下側における工事ですが、上流との生息域を絶たれた下流の群れが産卵のために集合してくる場所でもあります。事実、数年前下流の街中では、ニシキゴイのために設置された魚礁に住み着いたオオサンショウウオが地域の方が投げる残飯に反応して、日中でも姿を見せることが知られています。このグループの健康診断を兼ねて年一回の採捕を実施してきましたが、8月下旬から姿を見せなくなります。私たちが捕獲して測定したりするからだとお怒りになる方も有りましたが、産卵期の移動によるものです。その繁殖の場であるダム直下の河川の付け替え工事は、本種への大きな影響が出ることが予想されます。そこで、朝来事業所では事前調査を実施しました。3夜連続という基本的な調査が行われましたが、予想を遙かに上回る80個体が確認されたのです。マイクロチップを挿入したのは77個体に及びました。餌付け群の姫路市立水族館の調査で登録された33個体の内では3個体が重複するだけでしたので、チップによる登録数は107になります。水族館が登録した33個体の内で僅か3個体しか、今回の事前調査で発見されなかったのは、繁殖期移動が本当に行われているのかと改めて考えさせられました。

その中で№27と登録された個体が、このツチノコ君第1号です。調査員はガスっているのか、何か大きな物を食っているのかと腹を探ってみたそうですが、固くて締まっていたそうで、今後の追跡調査で変化があるのかどうか期待されます。いかがでしょうか？

ミズバショウの移植作業

ミズバショウは湿原の女神といった雰囲気、毎年のように季節になると尾瀬湿原がマスコミに登場する。大勢の観光客が殺到する尾瀬ヶ原では、その“陸の赤潮生物・ヒト”対策が問題になり、ガラパゴス諸島のように人数制限が求められた。ヒトもその昔には自然の一員であったのが、いつの間にか“自然”に相反する“人工”と言う立場に立つこととなっている。万物の霊長と奢り高ぶっていたヒトの利己的な“自分たちにさえ利益があり、効率的であれば正義である”という考え方が、この結果をもたらしたのである。

このミズバショウは岐阜県姪ヶ野高原が西限・南限と言われてきました。それが1975年に兵庫県大屋町（現・養父市）の加保坂に自生しているのが知られ、翌年には県指定の天然記念物となりました。地面が見えぬくらいに群生していると言われた尾瀬とは比べようもありませんが、大きく南限を広げた貴重な存在です。標高 620m 付近に自生しており、ミズバショウ公園は毎年4～5月頃に多くの愛好家に親しまれています。西方13°程にある氷ノ山の自生地古生沼も有名ですが、共に地中の花粉の分析によって自生地であることが証明されています。

さて、このミズバショウを栽培して苗を育てて新たな湿地に移植してみようという試みが行われています。私が調査フィールドとしている朝来市生野町黒川で過疎化に危機感を抱き活性化の活動を行っている“黒川あそび会”の皆さんです。調査河川の上流は関西電力の奥多々良木揚水式発電所の上部池である黒川ダム湖ですが、このダムの集水域である谷の一部にできた湿地を囲ってミズバショウの聖域づくりに動いているのです。11月25日の午前中にメンバーが移植のための穴掘りをして、ボランティアの到着を待っていました。苗ポットからは長い主根（根茎？）が出ており、これを傷つけると弱っていき枯れてしまうとリーダーの等さん（当地域は竹村さんが沢山いるので、セカンド・ネームで呼ぶ必要がある）が曲がった腰をシャンと伸ばして解説してくれました。細い流れがいく筋があり、一部に木道が設置されている湿地で、食害防止ネットが巡らされておりすでに6年物のミズバショウも見られたが、夏には草ボウボウになってしまうだろうという環境でした。クリンソウの苗も同時に植えつけられましたが、共に自生の植物ではありません。外来生物の問題がありますが、植物の場合には花壇の草花や工事後の緑化などとして多くの種類が使われています。繁殖力の旺盛な種であると、囲いから逸出して生態系に影響を与えかねませんが、ダムによって河川の最上流が切り取られそこに僅かにできている湿地なので問題は無いと思います。万が一、逸出しても即座に食害を受けて消えてしまうことでしょう。

植えつけた株数は 500とクリンソウ 600でしたが、ボランティアの神戸動植物環境専門学校校の若い人たちのマン・パワーはさすがで、将来的には黒川地区にフィールドを構えての実践的教育も考えているそうである。これも地域にとっては大きな魅力でしょう。

ハンザキ研日誌 2006年11月

- 1日：10月31日から引き続きオオサンショウウオ調査～3日(GS-220)
- 2日：簾野地区人工産卵巣穴チェック、全卵孵化していた
- 3日：ハンザキ研の池に収容していた20卵中5卵が孵化、夕方までに9匹となる
：当NPOの初めてのイベント“源流の里・黒川エコ・ツアー”実施。公募で78人の応募があり、神戸や姫路から2台のバスで70名の参加あり（ハンザキ研見学、オオサンショウウオの講演、人工巣穴見学など、東京や広島からの参加あり、大好評でした）
：地域の秋のイベント“メッチャ面白い黒川秋の陣”でオオサンショウウオの話
- 4日：都立国立高校の48年ぶり同窓会へ、誰が誰やら・・・話をしている内に・・・
- 7日：オオサンショウウオ調査～10日(GS-221)10日朝のスクール・バス6:51発で姫路へ最後の中学生が卒業するので、今月で運行終了とか、さて私の足は？
：国交省・姫路河川国道事務所・日本工営社来所（加古川・揖保川について）
- 13日：オオサンショウウオ調査～30日(GS-222)この間、17日と24日、朝一のバスで姫路の専門学校へ出勤
- 14日：“はんざき”ブロックのランデス社・大月社長他来所
：アンコ淵の黒主が巣穴から出て30分程外遊する。卵の孵化で行動が変化してきた
- 22日：黒川地域活性化協議会開催、神戸学園・動植物環境専門学校の福田・城教諭来会
旧・黒川小学校の使用検討のため
- 25日：黒川あそび会の「ミズバショウ移植事業」参加
：京都大学1年・前田知己君オオサンショウウオ夜間調査初参加、期待のホープ君
- 28日：大阪府箕面川のオオサンショウウオ死体搬入
- 29日：姫路市立水族館の調査で清水技師来所（GS-223）、幼生にアタマビル寄生発見
：国交省・豊岡河川国道事務所の出石川工事の打ち合わせにカンソー社来所
- 30日：神戸学園・動植物環境専門学校一行22名来所、オオサンショウウオのレクチャー（今月は3回25日間の出勤？で、総計204人の利用がありました）
-

ハンザキ所長のツブヤ記録

山奥でヒッソリとハンザキの調査研究をライフワークとして実施できるようになり、個人的には大いに満足しています。これも私一人では実現できないことで、お世話になった皆様方には大変に感謝しています。このニュース・レターはその御礼を兼ねて情報の発信を月刊で頑張っているところです。内容は、オオサンショウウオが中心ですが、無関係な私個人の事でもなんでもありと言うことで、気楽に書き進めています。無論、多くの方々からの投稿も大歓迎です。一人ではいずれ行き詰まる事になるでしょうから、よろしく。



写真2 人工巣穴の観察ツアー



写真1 エコ・ツアー参加者が孵化した幼生を見つめる



写真3 巣穴内で孵化幼生（黄色い腹部が見える）を護るオス



写真4 黒川祭りでは水上ステージで



写真6 ミズバショウの植付け作業



写真5 ツチノコ第1号（全長70cm, 体重4.13kg）